

2021年2月15日

## ウイルス感染力の低下を確認 神戸製鋼所、抗菌メッキ技術のコロナへの効果検証

神戸製鋼所は10日、同社が開発した高機能抗菌メッキ技術「ケニファイン」が、新型コロナウイルス感染症の原因となる新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に対しても、ウイルスの感染力を低下させる事を確認したと発表した。同技術を広く応用してもらうため、引き続き複数の検証を行っていくとしている。昨年10月には旭海運が、同社が保有するパナマックス・バルカーにケニファインを導入し、効果を検証する実証実験を始めている。

ケニファインは、同社が独自に開発したニッケル合金メッキ技術。一般的な抗菌材の10倍以上高い抗菌性があるほか、過去にはインフルエンザウイルスやSARS（重症急性呼吸器症候群）の引き金となったウイルスと同属のコロナウイルスにも抗ウイルス効果があることを確認している。

同技術で新型コロナウイルス感染症にも抑制効果が期待できると考え、第三者機関で効果の有無確認を目的としたステンレス鋼との比較試験を実施。従来法よりも厳しい条件下で評価を行ったが、ステンレス鋼と比較してウイルスの感染力が1000分の1程度になる結果が得られたという。

具体的には、試験前にサンプルを殺菌消毒し、ウイルス液に所定時間浸漬した後、感染性を持つウイルス量であるウイルス力価を測定。従来法と比べ、比液量（サンプルの表面積に対するウイルス液の量）が14倍の条件下での評価を実施した。3回の実験で評価を行った結果、ケニファイン処理をしたステンレス鋼は、未処理ステンレス鋼と比較して96時間経過後のウイルス力価を、35分の1～3200分の1まで低下させることが確認された。